

連載 私の町はどんな町①①

— 深谷市 (その2) —

深谷宿中央に「深谷城址」があります。別名「木瓜城」と呼び、周囲を低湿地帯に取り巻かれた平城でした。

深谷城は上杉氏滅亡後、家康の子達が一万石で城主となりました。家康の数多い男の子の中で「鬼子」と呼ばれ最も奇怪な生涯を送った松平忠輝が一六〇三年まで三年間城主をつとめています。

忠輝は、大阪冬の陣で秀忠からの出兵の要請を無視し、豊臣秀頼との友情を守り、秀頼の助命の行動をとったとして、戦後秀忠から厳罰に処せられるところ、家康の配慮により勘当処分となり、忠輝は謹慎先を最初に城主を務めた深谷の地を望み、深谷の山村で九十二才まで医療活動等、貧民相手の奉仕活動に専念しています。

深谷宿出口の常夜灯の先を左折した処に「清心寺」があり、山門を入った左側に「平

薩摩守忠度の墓」があります。

忠度は平清盛の末弟で、一ノ谷西手の大將軍でした。一ノ谷合戦の時、深谷の隣村の岡部村の武將「岡部六弥太忠澄」に首をとられました。六弥太は忠度の遺髪を持ち帰りこの清心寺に五輪塔を建ててその菩提を弔ないました。墓前に「忠度桜」と云われる桜の木があります。これは忠度夫人が東上し、亡夫を慕い墓前に桜の木を植えたもので、現在の木は十数代目になると云われています。

一ノ谷の合戦の場面を「平家物語」には――

「岡部六野太（後に六弥太となる）との討ち合いで忠度はもはやこれまでと覚悟し、しばし退け十念を唱えん」と西方に向かい声高に十念を唱え終わったところ、六野太が忠度の頸を討った。しかし大將軍の名前か判らない、ふと見ると箆に一通の文が結びつけられていて、

行ききれて 木の下かげを やどとせば 花やこよひのあるじならまし 忠度

と書いてあり、薩摩守忠度であると判明した。」とあります。

深谷宿を出て上里郡岡部町（現在深谷市普濟寺）に入ると六弥太開祖と云われる「普濟寺」の近くに、風雨に曝され苔むしていた墓の五輪塔を、平成二年に岡部町によって発掘整備された「岡部一族の墓」があります。



岡部一族の墓地 (深谷市普濟寺)

同じ一ノ谷の合戦で、敦盛

を討った熊谷直実は、駅前銅像が建ち全国区の英雄となりましたが、隣郷の岡部六弥太は一ノ谷西口の総大將・平忠度の首級をあげ、清心寺の墓で供養を行っているのには

ほとんど無名なのは残念です。

岡部氏は、六弥太の祖父忠綱に始まり、美里町・寄居町を中心に勢力を持った武士団「猪股党宗家猪股忠兼」の六男で遣唐使として有名な小野妹子の子孫を称しています。

六弥太も敵に挑み名乗りをあげる時は「岡部六郎小野太郎忠澄」と叫んでいたと云われています。

この墓城から普濟寺にかけての一带が、岡部六弥太の館跡と伝えられ、地名にも「古城」とか「的塚」というのが残っています。

普濟寺の北方四キロ位の処に深谷市血洗島という部落があり、明治財界の巨匠「渋沢栄一の家」があります。

中山道はJ.R岡部駅の北で国道と別れて大きく北へ迂回して本庄市に入ります。



深谷宿常夜燈

(小島 次郎)

マンション大規模修繕工事なら 専門会社ラクシーにお任せください!

専門会社ならではのノウハウがあります😊

工事進捗情報サービス

- ホームページで工事の進捗状況を、リアルタイム配信!!
- ★IDとパスワードによる個人情報保護
- ★インターネットのつながる環境であれば全国どこでも24時間確認可能
- ★足場内の施工写真や工程表、お知らせを随時更新



<http://www.ruxy.co.jp/>

検索サイトで「ラクシー」と検索してください



国土交通大臣許可 (特-16) 第20636号
 本社: 千葉県松戸紙敷1009
 東京営業所: 東京都港区新橋4-25-6鈴山ビル2階
 神奈川営業所: 神奈川県横浜市西区楠町10-8

0120-552-028